

## 花祭り



4月8日は花祭りです  
お参りください

お釈迦様はインド北方の民族である釈迦族のカピラ城の王子様として生まれました。釈迦族の優れたものを意味する釈迦牟尼世尊「釈尊」、または釈迦牟尼如来と呼ぶのが正しいのですが、一般的にはお釈迦様と言われています。  
「天上天下唯我独尊」お釈迦様は誕生するとすぐに七歩あるかたてこう言われたそうです。「天の上にも、天の下にもただ我一人が尊い」と、「私たちのいのちというものは、それぞれ尊い命を生きている」ということであり、釈尊だけではなく、生きとし生けるものがみんな「唯我独尊」であるということです。意味は深いです。

4月8日は釈尊降誕会(コウタンエ)【花祭り】です。お生まれになったルンビニの花園になぞらえて、花御堂に安置された誕生仏に甘露の法雨である甘茶をお掛けします。灌仏会(カンブツエ)、仏生会(ブツショウエ)、浴仏会(ヨクブツエ)ともいい、一般には花祭(ハナマツリ)とよんでいます。生まれたばかりの釈迦の体に九つの竜が天から清浄の水をそそいで、産湯を使わせたという伝説が伝えられており、また灌仏会もインド、西域(セイイキ)で盛んに行われた。中国でも三国時代に行われており、唐(755)・宋(960)代に盛んとなった。日本では推古(592)朝(592~628)から行われていたともいう。840年(承和7)には宮中で灌仏会が行われ、六百六年に、奈良の元興寺で行われたのが、日本で最初の花まつりだと言われています。  
のち一般寺院へも普及した。



### 一口法話

真心はどんな  
宝石よりも美しい。

何よりも健康は第一の富である。

### 【甘茶】 あまちゃ

ユキノシタ科の落葉低木で、



ヤマアジサイの一変種。コアマチャともいふ。茎の高さは80センチ、葉は先のとがった楕円(4.1)形で長さ9センチ、茎に對生する。夏に枝先に多数の小花をつける。周辺の中性花の花弁状のものは萼(5.1)で、先端が丸みを帯びてややくぼむ。初め青色、のちに紅紫色となる。アマギアマチャは伊豆半島の山地に自生し、アマチャより葉は狭く、生時から甘味がある。中性花は白色。

4月8日の灌仏会(592)に甘茶を用いる習慣は、いつごろ始まったのか明らかではないが、室町時代には単に湯や香湯をかけていたものが、江戸時代に甘茶に変わった。その原形は中国と思われ、中国の『荊楚(4)歳時記』(6世紀)には、釈迦(5)誕生(6)のとき天から甘露水が降ったという伝説が伝えられる。なお、原義から甘茶でなく天茶が正しいとする見方があり、シーボルトもそれをとった。  
甘茶の甘味成分はD、フィロズルチンおよびインフィロズルチンで、甘味度はサツカリンナトリウムの約2倍の強さをもつ、かなり強力なものである。フィロズルチンは1880年(明治13)薬学者の丹波敬三により甘茶から分離された。甘茶は、アマチャの葉を夏から秋にかけて採取し、日干しにして、半乾きのとき、よくもむと甘味を生じるので、これをさらに十分乾燥して仕上げる。なお、生葉にはほとんど甘味はないが、この葉を煎(4)じると甘味があり、飲用にするほか、加工食品の甘味料として、使用されることもある。

## 空海の言葉 シリーズ

### 書を読んで但だ名と財とにす

いくら多くの書物を読み知識を蓄えても、立身出世や金儲けのためにするのは、なんにもならない

平安時代のこと。ある人が弘法さんに、「あなたは高野山の山奥で、一人で修行されて密教の奥義を極めておいでのようですが、山を下りて密教を世間に広めないでいいのですか?」と、お尋ねしたところ、こういつて嘆かれたというのです。「いまの人は書物を読んで学んでいいるが、それは、少しでも早く出世をして、高い地位と高い給料を手に入れたためである」。それから千二百年を経た現在の子供たちも同じですね。みんな一流の大学を卒業して、役所や一流企業に入って、高級官僚や重役に出世をするためです。そうなれば、より高い地位や名譽、より強い権力と、より多くの財産が得られるからです。いかに時代が変わっても、人は財産や地位や名譽や権力を手に入れて、名を後世に残したいために一所懸命に学んで働きます。けれども、そんな考え方では勉強を続けていると、なにことも損か得かで判断するようになってしまいます。その結果、それが正でそれが悪かの分別がつかなくなり、やがて自分の地位を利用した汚職や収賄事件を引き起こします。  
平安時代に、名譽や財産を求めて学んだ人たちの名は、現代ですっかり忘れられました。  
ところがただ一人、自らの利益のために学問をせず、世のために活かす学問を学び続けた弘法さんの名だけが、永遠に脚光を浴びているのは皮肉なものです。(空海の言葉より)

